



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発行者 情報宣伝部
2025年8月20日 No.925

労使協議中であるにも関わらず、 会社がセカンドキャリアスタッフ制度を一方的に進める！ 申第4号「労使協議を軽視した不誠実な対応に関する緊急申し入れ」の団体交渉を開催

私たち東日本ユニオンは現在、「セカンドキャリアスタッフ制度の新設」を含めて、経営側より提案された「組織の見直し」「人事・賃金制度等の見直し」について、団体交渉を通じて労使協議を進めています。

今まさに労使議論を進めている最中であるにも関わらず、経営側は7月24日にセカンドキャリアスタッフの募集を開始し「8月8日で募集を終了する」と一方的な施策実施を行いました。

このことは労使協議を軽視した不誠実な対応であり、看過することはできないことから、経営側に対して申第4号「労使協議を軽視した不誠実な対応に関する緊急申し入れ」を提出し、8月20日に団体交渉を開催しました。

今後もより良い施策の実現に向けて

労使双方が真摯に向き合い、労使協議を進めていくことを確認

【団体交渉における主な議論】

▼経営側

- ・提案資料において提示しているスケジュールに則り、セカンドキャリアスタッフの募集を開始したものである。
- ・社員には説明資料等を用いて必要な周知を行っており、制度の目的や仕組み等を理解していると受け止めている。
- ・組合側の主張は受け止めさせていただくが、提案資料で「必要な準備を進めていく」とのスケジュールを示しており、7月18日には募集期間を含めた「通達」を発した旨を組合側に情報提供も行っている。一方的に実施しているとの考えはない。
- ・労使協議を軽視する考えはない。組合側から申し入れなどの提起があれば真摯に対応している。会社としても団体交渉をトッププライオリティーと位置付け、スケジュール感をもって労使双方で調整の上で対応している。

▼組合側

- ・私たちは提案されている「セカンドキャリア制度の新設」を否定していない。会社提案に対して真摯に向き合い、より良くしていくために「労使協議中である」と認識している。したがって経営側による一方的な施策の実施は認められない。労使協議を軽視した不誠実な対応である。
- ・「スケジュール感をもって」というが、経営側から示されたものは「必要な準備を進めていく」とのことだけである。制度を利用する側の組合員は、会社から「必要な周知はされていない」と受け止めているのが現実だ。
- ・制度を利用する社員にとっても経営側にとっても「Win-win」の制度でなければならない。だからこそ制度内容の詳細をはじめ、募集期間や募集方法などを含めて労使で協議した上で社員に募集をかけるべきものである。